学校だより
わかまつ
鈴鹿市立若松小学校
Ｎｏ．４４
令和７年２月２５日
わ くわく か がやく子　ま なび合い つ ながる子

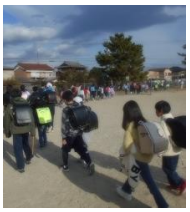
☆第６回学校運営協議会を開催しました　【２月21日】

２月21日(金)に今年度の最終となる第６回学校運営協議会を開催しました。

はじめに「学校関係者評価書」について協議いただきました。学校からは、市の大きな4つの柱立てを中心に今後の取組について説明を行いました。

・基礎基本を大切にした学力向上と併せて、算数科を中心に複線型の授業の職員研修を行っていくこと。
・学校運営協議会の皆さんによる授業参観を計画し児童の様子をもとに話し合いを進めていただくこと。
・まとまった量の文章を読んで理解する力は今後も必要なため、本を読むことを大事にしていきたいこと。
・笑顔で子どもたちと接し肯定的な声掛けや環境整備などにより、非認知能力の育成を目指していくこと。

などを説明しました。委員の皆さんからは「教えることは学ぶこと。子どもたちどうしでの教え合いを進めてほしい。」「行事に参加することはとても大事だと思う。そのことで本業の学業が向上すればなおよい。」「学調の話も出たが、数字に振り回されるのではなく、子どものやる気を出させるような取組を大切にしてほしい。」「子どもはきっかけと動機さえつければどんどん自分で進めていくことを実感している。何かをつかむと期待した結果を超える力を無限にもっていること(4年生の語り部)を目の当たりにした。」「保護者の思いや価値観は多様である。学校評価書では課題が分析されており改善点も具体的に示されていたので、子どもたちには中学校へ強くたくましく進んでもらいたい。」「授業参観で子どもたちの姿を見せてもらってよくわかった。児童の学習の成果を工夫して掲示されており、子どもの興味を引き出す取組と感じた。」「学校だよりにより学校の取組がわかる。心を養うことで学力につながっていくと思う。環境面でも協力していく。」などのご意見を頂戴しました。来年度にむけて学習や行事の計画の参考とさせていただきます。ありがとうございました。



ありがとうございました‥これからもよろしくお願いします。

地域コーディネーターとして　15年間ご活躍いただいた樋口比呂麿さん、安心・安全ボランティアとして　20年間ご活躍いただいた中川久子さんに、児童会より感謝の気持ちをお伝えしました。

これからも、若松小と若松小学校の子どもたちを見守ってください。ありがとうございました。

☆第12回校内研修会【2月19日】と 研究授業【２月７日】

２月７日(金)2限目に5年１組で今年度最後の研究授業を行いました。

また、2月19日(水)には、第12回の校内研修会を行い、「授業中に間違っても大丈夫という雰囲気を大切にしていく」ことなどを先生たちで改めて共有しました。

○4年生総合学習について【中日新聞2月19日】

光太夫 子ども語り部復活

鈴鹿の顕彰会養成 若松小児童デビュー

光太夫が持ち帰った1ルーブル銀貨を紹介する内山さん＝鈴鹿市若松西の緑芳寺で

鈴鹿市の大黒屋光太夫顕彰会が「子ども語り部」として養成した若松小学校の児童3人が14日、地域の歴史と文化を学ぶ町歩きの授業で実践デビューを果たした。会によると、コロナ禍で育成を中断していたが、数年ぶりに復活。3人の語りに同級生らも「素晴らしかった」と刺激を受けた様子だった。（日下部弘太）

「すごい人 一生忘れない」

子ども語り部は、4年の内山蒼さん(10)、宮本篤義さん(10)、椋本智貴さん(10)。若松地区出身の船頭でロシアに漂流し、10年後に帰国した光太夫のことを「もっと知りたかった」と椋本さん。1月と2月の休日に1日ずつ、それぞれ2時間ほどをかけて光太夫ゆかりの場所を巡り、顕彰会員から特訓を受けた。

この日の授業では、4年生37人が2班に分かれて顕彰会員らと地区を歩き、近鉄伊勢若松駅や光太夫の菩提寺の緑芳寺で、内山さんらが解説。若松駅のロータリーは光太夫が乗り組んだ神昌丸を模した造りになっていて、石で波を表現していること を伝えた。緑芳寺では、光太夫がロシアからちゃ知れた」と宮本さんらに直接声をかけて感謝。浜口英至さん(10)も「ちゃんと勉強してみんなに伝えられて、すごい」とたたえた。

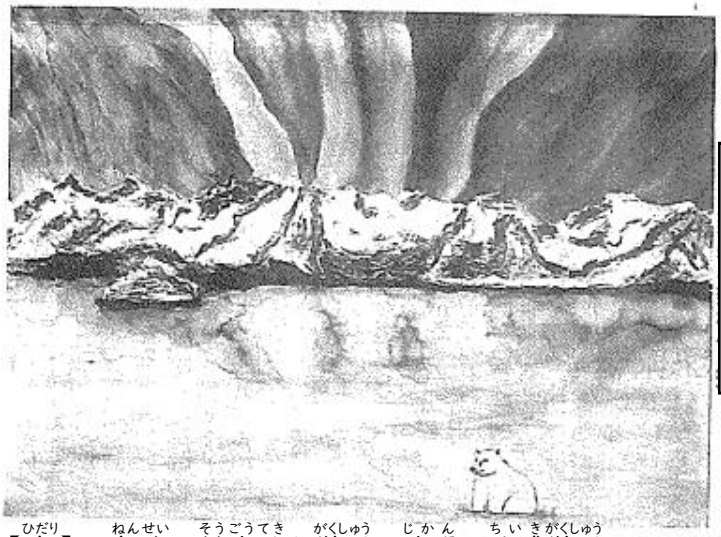
持ち帰った1ルーブル銀貨やロシア語で「成功した人の話をよく聞きなさい」などと書かれた紙片を紹介した。

同級生の西口琥晴さん(10)は「知らんことをめっちゃ知れた」と宮本さんらに直接声をかけて感謝。浜口英至さん(10)も「ちゃんと勉強してみんなに伝えられて、すごい」とたたえた。

く伝えられた」と納得の表情。3月末に栃木県に引っ越すという三村駿太さん(10)は「ぼくもやってみたい」と話した。

語り部デビューについて、椋本さんは「緊張したけど、みんなが楽しんでくれて良かった」と笑顔。宮本さんも「練習よりもうまくできた。一生忘れないと思う。栃木のみんなにも伝えたい」と語った。

○第36回読書感想画県コンクール最優秀作品【毎日新聞2月20日】



【左】4年生の総合的な学習の時間の地域学習での様子が2月19日付の中日新聞の鈴鹿・亀山版にて紹介されました。

【右】図工の時間に読書感想画に取り組んだ作品を県のコンクールに応募したところ、6年生のさんの作品「一人ぼっちの母熊」が最優秀作品(8441作品のうち14作品)に選ばれ、2月20日付の毎日新聞にて紹介されました。講評「中村さんの作品は、母熊の悲しさと自然の壮大さが対峙され、とてもよく表現されています。こだわって描いたことが伝わります。」

○第37回親子レク開催！【2月22日(土)】→体育館清掃ボラティア

【親子レクリエーションの様子より】

PTA体育厚生部と若松ジュニアふれあいクラブの主催による「第37回親子レク」が2月22日(土)の9時から若松小体育館にて行われました。鈴鹿市レクリエーション協会の今井さんにボールを使ったゲームを中心にしたレクを教えていただきました。当日はPTA家庭教育学級の皆さんにもお手伝いいただき、約60名が参加してレクを楽しみました。企画・運営に携わっていただいた皆様、ありがとうございました。 レク終了後、11時より、体育館を利用されている団体の皆様のご厚意で、卒業式に向けて体育館の清掃をしていただきました。参加していただいた団体の皆様ありがとうございました。

【体育館清掃・・ありがとうございました！】